

第218回（令和7年5月25日施行）

基礎簿記会計

第1問〈帳簿記入についての出題〉

帳簿および帳簿記入に関する基礎的な知識を文章の正誤判断によって確認している。

1. 仕訳帳および総勘定元帳と、貸借対照表と損益計算書の関係を確認するとともに、主要簿の意義を確認している。。
2. 現金出納帳を締め切る際の借方（収入欄）と貸方（支出欄）に引く複線（二重線）、つまり締切線とその締切線の上に記入すべき金額について確認している。
3. 第2問の仕訳の基礎となる考え方を、勘定口座に記入するという表現で確認している。
4. 帳簿の金額の訂正方法について確認している。

第2問〈簿記の出発点である仕訳（複式記録）を問う出題〉

帳簿記入のための手続きは、取引を仕訳帳に記入することから始まる。そこでの仕訳とは、取引によって増減変化した資産、負債、純資産（資本）、収益、費用の勘定科目を、金額と共に左側（借方）または右側（貸方）のいずれに記入するかを決定することである。ここでは基礎的な取引について仕訳の理解を問うている。

1. は、町内会の会長と副会長が市役所を訪れるためにバス運賃と電車賃を支払った取引である。会長と副会長が町内会の会務を果たすための移動に際して発生した交通費（費用）と支払った現金（資産）の記帳を問うている。
2. は、町内会が会費を集金した取引である。発生した会費収入（収益）と、増加した現金（資産）の記帳を問うている。
3. は、2. で集金した会費の一部を銀行預金（普通預金）に入金した取引である。預け入れた現金（資産）の減少と、その預け入れにより増加した普通預金（資産）の記帳を問うている。
4. は、電気製品販売業者が、商品（電子レンジ）を購入した取引である。購入によって増加した商品（資産）と、代金の一部として支払った現金（資産）、並びに代金の一部を後払いにすることによって増加した支払義務すなわち買掛金（負債）の記帳を問うている。
5. は、電気製品販売業者が、店舗で発生した電話料金について銀行預金（普通預金）から引き落とされていることを確認した取引である。発生した通信費（費用）と、引き落とされたことによって減少した普通預金（資産）の記帳を問うている。
6. は、電気製品販売業者が商品（業務用冷蔵庫）を販売した取引である。販売によって減少した商品（資産）と発生した商品販売益（収益）、並びに代金の一部として回収した現金（資産）と後に回収する権利すなわち売掛金（資産）の記帳を問うている。

7. 電気製品販売業者が営業車両を修理した取引である。部品交換という修理により発生した修繕費（費用）と、その代金の支払いによって減少した現金（資産）の記帳を問うている。

8. 電気製品販売業者が現金を貸し付けた取引である。貸し付けたことによって減少した現金（資産）と、それによって増加した返済を受ける権利である貸付金（資産）の記帳を問うている。

第3問<日記帳から元帳への転記に関する出題>

帳簿の基本的な形は、日々の取引を記録する日記帳と、管理すべき単位（勘定）の記入簿（元帳）の2つである。

本問では、日記帳としての仕訳帳に記入されている3つの取引を、勘定科目がまとめられている元帳へ転記するという手続きを問うている。適切な勘定科目の勘定口座の借方または貸方に、相手勘定科目、丁数、金額を適切に記入できるかを試している。解答に際しては、問題に示されているように、指定された解答欄に適切な用語または数字を記入することに注意する。

第4問<会計報告書（収支計算）の作成に関する出題>

マンション管理組合の1年間の収支が集計されている試算表から、1年間の会計報告書（報告式）を作成できるかを問うている。前期繰越金と報告する1年間の収入項目を合わせて小計として示し、また1年間の支出項目も合わせて小計を示したうえで、次期繰越金に至ることを示す会計報告書（報告式）を作成することによって会計報告ができるかを試している。

解答に際しては、問題に示されているように、試算表の配列と同じ配列で収入項目と支出項目を示すことに注意する。

第5問<会計報告書（損益計算）の作成に関する出題>

期末の会計報告は、期末の財政状態を示す貸借対照表と、当期の経営成績を示す損益計算書の2つの会計報告書を作成することによって行われる。

本問では、与えられた元帳の各勘定科目の残高から精算表を作成できるかを問うている。その手順は、まず、解答用紙にあらかじめ示されている勘定科目について、問題に示されている金額が借方残高であるのか、貸方残高であるのかを正しく判断できているかを試している。その次に、作成した残高試算表欄から各勘定残高を損益計算書欄と貸借対照表欄に正しく記入し、当期純利益を算出して完成できるかを試している。